



今号で初めて表紙の取材を担当しました。写真は、私たち取材陣がロケハンでモデルを務めた際の1枚です。写真のように、校内の数か所で仮の撮影をして撮影場所の目星をつけた後、先生と生徒の皆さんにご登場いただき、本番の撮影を行いました。その時に驚いたのは、場所を変え、立ち位置を変え、何百枚も撮影したこと。その中から悩みに悩んで選んだ1枚が、今号の表紙です。

汗ばむ陽気の6月末、定期考査直後のところ、先生や生徒に何度も移動をお願いしましたが、皆さん、嫌な顔1つせず、和気あいあいとした雰囲気の中で撮影は進みました。先生と生徒の皆さんが過ごす、かけがえのない瞬間に同席させていただいたことを光栄に思いました。初めて表紙の取材をさせていただいた茨城県立境高校の木村先生と生徒の皆さんの素敵な笑顔の写真は、私にとって宝物の1枚です。(丸山)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2024年10月号

10月15日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です。

Reader's VIEW

先生方からのご意見を
紹介します

2024年6月号へのご意見

重要なのは、生徒が確実に学力をつけること

6月号の特集の事例整理にあった、「定期考査の廃止は観点別学習状況の評価を充実させ、目標と指導と評価の一体化を図るための『手段』に過ぎない」という記述が、本特集のポイントだと思った。事例1の岩手県・私立専修大学北上高校の記事で、川村俊彦副校長が言われていたように、「大切なのは、生徒が確実に学力を身につけること」であり、学習評価はその手段の1つだ。勤務校では今年度から、定期考査を実施しないことが認められることになり、私は担当科目で1学期の中間考査を実施しなかった。単元の終わりに単元テストを実施し、その類似問題を期末考査で出題したところ、中間考査を実施していた時よりも学習内容の定着度は高いと感じた。2学期は単元テストをより充実させたいと考えている。

千葉県 匿名希望

単元テストは今の生徒に効果的だと感じた

6月号の特集の事例3の鹿児島県立鶴丸高校の記事に、「単元テストによって、生徒はスモールステップで自分の学習状況を把握することができ、その後の学習の進め方を改善するスパンが短くなる」とあった。最近の生徒は、日常生活において速いサイクルで「吸収」「消費」「還元」をすることに慣れていているため、単元テストで学びを振り返ることは効果的であるように思えた。ただ、単元テストは、教師にとって生徒の学習状況を把握しやすいメリットがある一方で、何を身につけさせたいのかなど、目標や目的が曖昧だとテストが形骸化してしまう恐れがある。その点に留意する必要があると感じた。

静岡県立富岳館高校 松浦恵太

単元テストを好意的に受け止める生徒に驚いた

6月号の特集の高校生座談会の記事に、「(単元テストは)部活動も勉強も頑張りたい自分には、とても合っている」という生徒の発言があった。単元テストは、評価の比重が大きくない一方で実施回数が多いため、生徒は嫌がると思っていたが、意外にも単元テストを学習リズムのバロメーターとして、好意的に受け止めていることに驚いた。また、「先生の声かけは大きい」という発言もあったが、やはり私たち教師からの声かけは、生徒に大きな影響を与えるのだと改めて感じた。生徒に声をかける際には、言葉を慎重に選び、自分の思いをしっかりと伝えていかなければならないと、肝に銘じた。

東京都・私立東京農業大学第一高校 小堀健一

あえて待つ姿勢の大切さを実感

6月号の「先生なら、どうしますか?」の記事は、ウェブオリジナル記事を含めてじっくり読み、その内容に共感した。小・中学校時代に学校で傷ついた経験を持つ生徒に接する際、あえて待つ姿勢が必要であることを改めて感じた。彼らが教師を困らせたり、問題を起こしたりすると、彼らを責める教師の動きに同調しがちであるが、時にそれは生徒を大きく傷つけることにつながってしまう恐れがある。そうした生徒ほど困っているということを、心に留めて支援していきたい。

長崎県立波佐見高校 広井恒之